

[国語現代文]

2 「国語」現代文は解けなかったのか？



佐藤理史 (名古屋大学)

センター試験形式の「国語」現代文の模擬試験問題を用了公開性能評価の結果（2013年から2016年）を、表-1に示す^{1)~3)}。最初の2年間の代ゼミ模試では、古文・漢文を除いた現代文だけの偏差値が公表されており、2年目の偏差値は50を超えている。世の中では「国語はできなかった」という評価が定着しているが、現代文に限れば、高校生の平均点レベルに達している。

この4年間の主戦場は、評論の読解問題であったが、最新の解答器³⁾はセンター試験の過去問56問中31問（55%）に正解する。設問は五択の選択問題なので、ランダムに選んだ場合の正解率は20%であり、55%という正解率は「歯が立っている」と言ってよいレベルだと思う。

評論の読解問題では「与えられた本文に書かれている内容が問われる」。つまり、本文と設問と選択肢を完全に理解できれば、かならず正解が導ける。そのため、設問で問われていることが書かれている本文中の部分を同定し、その部分と選択肢を照合するという方法が、人間が解くにせよ、機械に解かせるにせよ、大前提となる。ただし、機械は、「部分の同定」や「照合」を人間と同じようにはできないので、「傍線部の前後の数段落」や「文字や語がどのぐらい一致しているか」などで代用する。そして、それらを素性に落とし込み、機械学習を用いて解答器を構成する。

ということで、現在の解答器が設問を解く方法は、

	問題数	配点	代ゼミ模試		進研模試		
			2013	2014	2015	2016	
第1問 (評論)	漢字問題	5	10	10	10	10	10
	読解問題	4	32	8	16	24	24
	問6	2	8	0	4	4	0
第2問 (小説)	語句問題	3	9	3	6	9	9
	読解問題	4	31	16	8	16	7
	問6	2	10	5	5	5	5
合計	20	100	42	49	68	55	
偏差値			44.7	51.9	n/a	n/a	

表-1 「国語」現代文の公開性能評価の結果

人間が解く方法とはかなり異なっているが、その性能は、平均的な高校生と同程度である。さて、この事実は何を意味するのだろうか。我々人間は、評論の文章を「ちゃんと」読めているのだろうか。

参考文献

- 1) 佐藤理史, 加納隼人, 西村翔平: 代ゼミ模試に挑戦2013 — 『国語』現代文, 情報処理学会研究報告, Vol.2014-NL-215, No.10 (2014).
- 2) 加納隼人, 佐藤理史, 松崎拓也: 表層的特徴を用いたセンター試験『国語』評論読解問題の自動解法, 人工知能学会論文誌, Vol.32, No.1, pp.C-G61 1-11 (2017).
- 3) 木村 遼, 佐藤理史, 松崎拓也: 二段階選抜による選択式評論読解問題の自動解法, 言語処理学会第23回年次大会, pp.386-389 (2017).

(2017年3月31日受付)

■佐藤理史 (正会員) ssato@nuee.nagoya-u.ac.jp

名古屋大学大学院工学研究科情報・通信工学専攻教授。『コンピュータが小説を書く日』のプログラマ。